

水稻生育情報 No.4

発行日：令和8年7月7日
県央農林事務所 経営・普及部門
(水戸地域農業改良普及センター)
TEL: 029-227-1521

間断かんがいを実施しましょう

[生育概況] (6月30日現在)

管内の「コシヒカリ」定点圃場では、草丈は那珂市で平年と比較してやや短く、水戸市、茨城町で平年並、小美玉市で平年より長い。茎数は那珂市で平年並、水戸市、小美玉市で平年よりやや多く、茨城町で平年より極めて多い。葉色は水戸市、茨城町で濃く、小美玉市でやや濃く、那珂市で平年並である。

「コシヒカリ」定点調査圃場の生育調査結果 (6月30日)

調査地点	年度	移植日 (月/日)	移植日から 調査日まで の日数	栽植密度 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	茎数 (本/株)	葉色 (カラー スケール)
水戸市 坏大野	R8	5/5	56日	50.3	62.6	698.0	46.2	4.2
	平年値	5/4	57日	51.3	63.8	593.3	38.5	3.7
茨城町 上石崎	R8	5/2	59日	63.3	63.2	635.2	33.4	4.0
	平年値	5/6	55日	53.1	63.8	460.8	28.9	3.5
小美玉市 上玉里	R8	5/15	46日	52.9	64.4	473.7	29.8	5.0
	平年値	5/22	39日	55.3	55.7	412.1	24.8	4.7
那珂市 鹿島	R8	5/19	42日	52.6	45.6	412.0	26.1	3.8
	平年値	5/26	35日	52.6	48.5	432.2	27.4	3.8

[今後の栽培管理]

1 適切な水管理の実施

・近年は夏期の高温が一因と思われる米の品質低下が見られます。水稻の高温対策として、間断かんがいによる水管理が有効です。5月上旬に移植した「コシヒカリ」は、中干しを終了し、入水と自然落水を繰り返す間断かんがいを行いましょう。

・5月下旬に移植した「コシヒカリ」でも7月第2半旬には幼穂分化が始まるため、それまでには中干しを終了し、その後は間断かんがいを実施しましょう。

2 斑点米カメムシ類対策について

・6月下旬現在、水田周辺のイネ科雑草地における斑点米カメムシ類は平年よりやや多い発生となっています(病虫害発生予報7月号より)。斑点米カメムシ類の被害防止のため、生息場所となる水田周辺のイネ科雑草の除草に努めましょう。ただし、水稻の出穂期※間近に除草すると、斑点米カメムシ類を水田へ追い込むことになるので、除草は水稻の出穂2週間前までに終わらせましょう。

・出穂期～登熟初期にイネカメムシやクモヘリカメムシによって稲穂を集中的に吸汁加害されると、著しい不稔被害が発生することがあります。これらの斑点米カメムシ類の発生が多い地域では、不稔被害の軽減を目的とした防除を出穂期～穂揃期に行いましょう。

・乳熟期以降に斑点米カメムシ類の密度が高いと斑点米の発生量が多くなります。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、乳熟期(出穂期10～15日後)に行いましょう。

※出穂期：圃場全体の40～50%が出穂した日